

## ---石鎚神社の星祭りとは---

685年、役小角によって開山された西日本最高峰・修験道の道場たる石鎚山ですが、その後、かの弘法大師も石鎚山で修行を積んでいます。石鎚山を正面に拝す遙拝所である「星ヶ森」で修行中（大同年間・806～10）の時、石鎚山頂付近に蔵王大権現（修験道の本尊）が現れたのを感得し、ここで天下、国家の災害や個人の災いを除く護摩を焚き「星供養」を修したのがその起源となっています。江戸時代初期には、この場所に鉄の鳥居が設けられ、今も大師の古にならい石鎚山に祈りを捧げる人が後を絶ちません。

〈標高 820 メートル/星ヶ森から拝す霊峰石鎚山〉



「星供養」は、「星供」、「北斗法」また「星祭り」とも呼ばれ、霊峰石鎚山を御神体と仰ぐ石鎚神社では、この儀式を神事によって執行しています。人は、それぞれに運命の星をもって生まれるとされ、石鎚大神と更に個人の運命星の御守護を頂く古来より伝わる神事です。

冬至の宵から節分の日まで、一月を越えて毎朝夕、御神殿にお申込み頂いた個人の氏名、年齢を記した特別なお守りを捧げ、そのお守りに除災招福の祈りが込められて行きます。

一年で最も星が煌めく夜が長い日から神事が開始され、満願となるのが立春の前日の節分の日。旧暦では、立春より新たな年、新たな朝が明ける日になります。

始まったばかりの新しい春に石鎚大神の仁（優しく）、智（かしこく）、勇（たくましく）の御神徳と個人の運命星の守護をいただく・・・それが石鎚神社の星祭りであり、授与されるのは「特別なお守り」なのです。